

八幡平いにしえの宝

(市内にある指定文化財を紹介します)



とめ さわ いち り づか 留の沢一里塚

所在地 七時雨山国有林内
指定年月日 昭和55年1月31日(旧西根町指定)



なな しぐれ いち り づか 七時雨一里塚

所在地 高畑96番地82
指定年月日 昭和48年2月19日(旧安代町指定)

留の沢一里塚は、基点である盛岡鍛冶丁(現紺屋町)から9里目、続く七時雨一里塚は、10里目に位置します。この里間は、七時雨山ろくを迂回する「車の走り峠」があり、江戸時代の絵図面には「大難所雪中牛馬不通」と注記されるほど鹿角街道最大の難所でした(注1)。

幕末の志士たちの尊王思想に大きな影響を与えた高山彦九郎(注2)が、寛政2年(1790年)の旧暦10月1日に荒屋新町から新田を経て、西根寺田まで通ったことが「北行日記」に記されています。日記には、10月1日「新町宿を出でて、(中略)橋を渡りて登る。七時雨という。(中略)七時雨を越える時、風烈しく稀にある所の梢を見るに落葉してぞありける。日に七度時雨るとて、七時雨と名付けたりなんと聞く(以下、略)」。10月2日「雪降る。わらじあらで、作らしめてはきける。(中略)泥濘行くになやめり。(中略)雪止みて風烈しかりける」と書かれており、紀行家たちの旅の苦勞がしのべれます。

(注1) 標高約690m、宿駅だった寺田は標高約270m、荒屋新町は約300m

(注2) 1747～1793年。林子平・蒲生君平とともに「寛政の三奇人」の1人。京都三条大橋に銅像がある。

《参考文献》 「歴史の懐道」鹿角街道を往くパンフレット、西根町史上巻、安代町史上巻



天保3年道標
(留の沢一里塚付近)



車の走り峠
(七時雨国有林内)



お七地蔵
(荒屋国有林内)

【広告】この広告は、広告主の責任において市が掲載しているものです。広告の内容について市が推奨などをするものではありません。

企業広告スペース